

氏名： 安成 英樹
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 文学修士 (1990 東京大学)
専門分野： 西洋史学、フランス近世国制史
E-mail： yasunari.hideki@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

西洋史学／フランス近世史／国制史／官僚制

◆研究内容 / Research Pursuits

フランス近世国制史の研究。とくに絶対王政期の官僚制度（官職売買制度）を中心とする権力構造や官僚組織としての宮廷構造の解明、そこを舞台に展開する儀礼の分析を通じて、当時の統治システムとその有効性を検討する。

具体的な研究課題としては、

- 1 絶対王政期の官僚制の考究・・・国王権力の重要な柱である官僚制について、その二大類型たる官職保有者と直轄官僚、この両者の特質を分析し、当時の社会に深く根を下ろしていた官職売買制度の実態に迫る。
- 2 権力を補完するものとしての権威構造の解明・・・支配の実際の脆弱さを補うものとして、国王を主体に展開された各種儀礼の具体的分析を行う。

平成 21 年度は、科研費基盤研究 (C)「絶対王政期フランスの宮廷構造研究」の最終年度に当たり、フランス宮廷の宮廷役人に対するさまざまな角度からの検討を行った。また基盤 (B)「身分感覚の比較史的研究」(研究代表者：岸本美緒)の研究分担者として、フランス近世社会の身分意識、実際に当時の人々が感じていた身分感覚についての研究を継続して行った。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の特講では、昨年引き続いて最新の社会史、とりわけ歴史人口学の成果をもとにフランス近世の民衆（農民）の日常生活をとりあつかった。歴史人口学的手法、そこからえられる知見をもとに、当時の農村社会の構造、村の日常生活、食文化（パンと肉食）、農村の歳時記（祭礼や農事暦）などについて詳細に論じた。学部の演習では、18世紀フランスの啓蒙思想とその影響のもとに展開した政治・経済上の諸問題、それに対するブルボン王権の対応等についてさまざまに検討した。2年生対象の西洋史研究法では西洋史学史を論じ、後半では歴史学の情報検索方法についてITルームを利用して実践的な授業を行った。また全学年対象の西洋史概説では昨年と同じく、パリとロンドンの比較史を協同で担当した。数年来継続しているフランス語テキストの輪読の授業を行った。大学院の演習では、昨年引き続きル・ロワ・ラデュリの研究書をテキストにしてフランス宮廷の位階秩序の分析を行った。また、学部4年生のなかで西洋史分野で卒論を書く学生（9名）についての研究指導を行った。

◆研究計画

フランスの宮廷の構成メンバーの計量的分析を行うことでその集団的特質を析出し、当時の宮廷の果たしていた社会的機能について検討する。また、従来からの官職保有者についてさらに研究の進展を図り、あわせて絶対王政期の権力と権威の問題を深く掘り下げる。また、フランス近世社会の身分構造についての分析を平行して行っていく予定である。

◆メッセージ

大学で学ぶ（ことのできる）歴史は、暗記中心の高校のそれとは違います。年号や固有名詞を覚えることにあまり意味はありません。ある時代のさまざまな事件、あるいは社会そのものがどうして生成され、変容していくのか、自分のオリジナルなテーマを見つけてそのための材料（史料）を集め、自分で考え、自分なりの解を見出すものです。そのために、大学で歴史を勉強したい人には、できるだけたくさんの本（必ずしも歴史関連のものに限りません）を読み漁ってほしいと思います。そのうえで、自分の取り組みたいテーマを見つけ出せばいいのだと思います。したがって卒論は自由にテーマが選べます。やれるかどうかを含めアドヴァイスはしますが、基本的に自分がなにを取りあげ、調べてみたいのが重要なのです。